

第63回カレッジ川柳会月報

第六十三回カレッジ川柳会月報(十一月例会記録)

日時 … 令和四年十一月三十日(水)午後一時～四時
 場所 … 浦安市民プラザ Wave 101 サロン5
 講師 … 佐藤 公江(千葉県川柳作家連盟理事)
 出席者 … 大西 旅人、大柳 シオン、清田 アキラ、谷口 勝、
 中葉 放太、中間 孝、松谷 のん紀、両角 節児、
 山岸 順、山口 昇柳、黒崎 与三坊、(順不同・敬称略)

課題「長引く」互選 佐藤 公江 講評

1点 歳かさね出来ない数え指足らず	シオン
いい加減コロナ騒ぎは卒業だ	孝
いつ終わるコロナ不況の我慢会	放 大
もう待てぬ座っているが腹が立つ	順
ワンマンの元氣引退遠ざける	与三坊
2点 卒寿でも美人長命「岸恵子」	旅 人
三分の絶叫並ぶ三時間	勝
プーチンの思惑はずれ泥沼に	アキラ
ポチにまで家内説教長くなり	節 児
教会の落とし所がまだ見えぬ	シオン
コロナ戦敵は透明完敗だ	アキラ
相続税世襲議員を追加する	放 大
これ以上待っても無駄か月見草	のん紀
就活へ靴何足も底ぬける	順
合コンに嵌まり婚期が遠ざかる	

3点 夫婦酒 秋の夜長も乙なもの
 検査検査で病名までの長い道
 悪友とチヨイト一杯深夜まで
 長寿とは老後のままで生きること

4点 拉致家族総理変われど未解決
 さよならと君が言うのを待っている
 人生は100年時代息が切れ
 与三坊 旅人

課題「長引く」佐藤 公江 選

「客」夫婦酒 秋の夜長も乙なもの	放 大
就活へ靴何足も底ぬける	のん紀
ワンマンの元氣引退遠ざける	順
人生は100年時代息が切れ	与三坊
検査検査で病名までの長い道	順
「人」教会の落とし所がまだ見えぬ	節 児
「地」合コンに嵌まり婚期が遠ざかる	順
「天」これ以上待っても無駄か月見草	放 大
* 例「講師の句」 課題「長引く」	
折り合いがつかず灰皿山となる	公 江
北国の春があるから雪に耐え	公 江
限界をこえたガマンは馬鹿に見え	公 江

第63回カレッジ川柳会月報

課題「人柄」二人選 松谷のん紀選

〔秀〕惚れたのね顔じゃなくって人柄に 元首ともなればいくつも仮面持ち にこやかにいつも挨拶笑顔人 良い人は早死にと言ひ友は逝き 追悼の挨拶に出るお人柄 もう一つ強く出られぬ気の弱さ とんがった友も年々丸くなる 頼まれて嫌と言えないお人好し 人柄の良さが昇進遅らせる 昔からもめ事避けてまあまあと	〔客〕ものくれる友と知恵ある友が好き 仲人は顔には触れず気立て褒め 品格が駄洒落の度に逃げていく ヒーローの夢生き下手で泡と消え 人格者一瞬見せる裏の顔	〔人〕人品が卑しからずとおだてられ	〔地〕うちのひと座敷童のような人	〔天〕閻魔様俺の生き様理解する	*	〔自句〕課題「人柄」 命日に庭の切り花活けに来る サークルの会長立てる黒子役	放 旅 節 与三坊 節 孝 与三坊 与三坊 与三坊 勝 孝 与三坊 放 順 放 アキラ 勝 アキラ のん紀 のん紀 のん紀
--	--	-------------------	------------------	-----------------	---	--	---

〔自句〕課題「人柄」つづき

好きな花活けて迎える退院日
ひとつ買う人お先へとレジの前
のん紀
のん紀

課題「人柄」二人選 佐藤 公江選

〔客〕とんがった友も年々丸くなる うちのひと座敷童のような人 頼まれて嫌と言えないお人好し 品格が駄洒落の度に逃げていく 断れぬ氣質ストレス抱え込む	〔人〕人柄の良さが昇進遅らせる	〔地〕もう一つ強く出られぬ気の弱さ	〔天〕ヒーローの夢生き下手で泡と消え	*	例「講師の句」課題「人柄」 曲げられぬ気性でいつも損をする 一ぺんも不平を言わず出世せず 人間味あふれ出世に遠くいる	与三坊 勝 与三坊 放 順 勝 孝 順 公江 公江 公江
--	-----------------	-------------------	--------------------	---	---	--

第63回カレッジ川柳会月報

自由吟 佐藤 公江 選

〔客〕久々の青い眼に会う高尾山

惚けて皿かぞえられぬも鮪を食う

信号待ち片足立ちのスクワット

社訓への誓い家族が軽くなる

ひとり旅妻は羽衣つけて行き

〔人〕下を見て歩けば背中丸くなり

〔地〕握手して力仕事の過去を知る

〔天〕靴底が主張している棒グラフ

勝

旅人

のん紀

順

旅人

シオン

与三坊

順

お知らせ

次回令和五年一月例会予定

日時：一月二十五日（水）午後一時～四時

場所：美浜公民館・第三会議室

① 互選 課題「もったいない」三句以上

② 二人選 課題「予感」三句以上（アキラ選・公江選）

※互選句と二人選句は事務局あて投句願います。

投句締切 一月二十一日（土）必着

③ 「自由吟」三句以上（佐藤公江選）

※例会当日、句箋で投句願います。



第63回カレッジ川柳会月報

落穂拾いコーナー 消えるのが「惜しい」句は？

十一月自由吟 落穂拾い

- ① ようやっと気分爽快旅の空
- ② 料理して初めてわかる有難み
- ③ 嬉しくない天にも昇る時なんて
- ④ 新米の炊き上がり待つ共白髪
- ⑤ 蔓草に廃村の家飲み込まれ
- ⑥ 屋根裏のミッキーと住む祖父の家
- ⑦ 不祥事は重く受け止直ぐ忘れ
- ⑧ 昔はね孫を相手の昼下がり
- ⑨ 平幕の出番を増やす役力士
- ⑩ 習い事入門編で止まる俺
- ⑪ シーエムの流れぬテレビ捜したい
- ⑫ 鈴の音の届く範囲で徘徊す
- ⑬ ムキムキの太極拳は親しめず
- ⑭ 確認しまた確認す戸締りを
- ⑮ 先に逝き席を作って妻を待つ
- ⑯ どさくさにまぎれ値上げで太りだす
- ⑰ 前歩く若者ぬかし直ぐぬかれ
- ⑱ 生きている音喧しい朝の駅
- ⑲ 駅。ピアノ市区等の生きる歴史良い
- ⑳ 弱音より生き生き老いをゆったりね
- ㉑ 老骨の飯をがちり爪を研ぐ
- ㉒ コロナ知らず長男急死もう5年
- ㉓ 上を見て歩けばコブにけつまずく
- ㉔ 食卓に至福を運ぶ手に感謝
- ㉕ ひとり身に揺らぐ心のイヤリング
- ㉖ 安心なコロナ対策何時出来る
- ㉗ 初恋のトキメキ今は不整脈
- ㉘ 黄葉と紅葉交じりハモってる
- ㉙ かれ葉落ち我が人生を返り見る
- ㉚ 無口ならバカも利口もわからない
- ㉛ 若い人男女の見分けむずかしい
- ㉜ 晩秋追憶ふける我れ晩年
- ㉝ 孫娘米国帰り。ピアスつけ